

(図表11) KAMの項目別個数の比較

項目	2020年3月期KAMの個数		2021年3月期KAMの個数	
	連結	個別	連結	個別
固定資産の評価	19	5	20	4
収益認識	10	8	10	8
繰延税金資産の評価	6	1	6	1
のれんの評価	16	-	13	-
棚卸資産の評価	4	2	4	2
貸倒引当金	11	4	10	2
その他引当金	8	5	9	5
関係会社投融資	-	15	-	18
組織再編	8	1	5	1
金融商品	7	1	6	1
その他	11	5	11	3
合計	100	47	94	45

(図表12) KAMの項目の変更

変更の有無	会社数	
	連結	個別 <sup>(※)</sup>
増加のみあり	4	2
減少のみあり	12	4
増加・減少ともあり	9	4
変更なし	21	37
合計	46	47

(※) KAMがないと判断している会社も、その変更の有無を含めている。

ここでは、KAMの項目のうち、主なものについて、項目ごとにKAMの記載事例を分析する。

### 第4章

# 固定資産の評価、収益認識、繰延税金資産等 KAMの項目別の 記載事例分析

## 固定資産の評価

固定資産の評価に関するKAM

は、大半が減損損失の認識や測定を対象とした項目であった。有形固定資産やソフトウェアを中心に記載したものを固定資産の評価、のれんを

(2) KAMの項目の比較  
KAMを項目別に分類すると、図表11のようになる。項目の分布に大幅な変動はなく、2021年3月期においても、2020年3月期と同様に、連結監査のKAMでは、固定資産の評価、のれんの評価、貸倒引当金、繰延税金資産の評価等、会計処理に経営者の判断を必要とする会計上の見積りに関連する項目が多かった。また、個別監査のKAMでは関係会社投融資が多かった。

(3) 会社ごとのKAMの項目の比較  
KAM早期適用の各社において、2020年3月期と比較し、2021年3月期でKAMの項目が変わっているかどうかまとめると、図表12のようになる。前述のように、早期適用会社を全体としてみると、KAMの項目の分布に大幅な変動はみられなかったが、会社ごとに分析すると、連結監査のKAMでは、半数以上の会社でKAMの項目が変更されていた。KAMは、その年度ごとに、監査上、特に何が重要であると判断したかを検討して決定する必要があるため、2021年3月期における会社や監査の状況の変化を反映して、KAMの項目も変更されたものであると考えられる。なお、KAMの項目に変更がなかった21社

についても、KAMの記載内容は、2021年3月期における会社や監査の状況をアップデートしたものと なっていた。  
一方、個別監査のKAMについては、2020年3月期からKAMの項目に変更がない会社が37社となっており、全体の約80%を占めていた。これは、対象が親会社単体に限定されるため、相対的に監査上の検討事項も限定的になるためであると考えられる。なお、KAMの項目に変更がない会社においても、連結監査のKAMと同じように、KAMの記載内容は2021年3月期の会社や監査の状況を反映したものとなっていた。